



## 2023年11月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年4月4日  
上場取引所 東

上場会社名 株式会社 エスプール  
コード番号 2471 URL <https://www.spool.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 浦上 壮平  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部担当 (氏名) 佐藤 英朗 TEL 03-6859-5599  
四半期報告書提出予定日 2023年4月11日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年11月期第1四半期の連結業績（2022年12月1日～2023年2月28日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年11月期第1四半期	6,089	△6.6	452	△32.5	454	△31.9	288	△35.4
2022年11月期第1四半期	6,520	20.5	671	73.3	667	74.3	447	78.5

(注) 包括利益 2023年11月期第1四半期 288百万円 (△36.9%) 2022年11月期第1四半期 457百万円 (83.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年11月期第1四半期	3.66	—
2022年11月期第1四半期	5.66	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年11月期第1四半期	17,476	7,085	40.6	89.80
2022年11月期	17,030	7,429	43.7	94.14

(参考) 自己資本 2023年11月期第1四半期 7,094百万円 2022年11月期 7,437百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年11月期	—	0.00	—	8.00	8.00
2023年11月期	—				
2023年11月期（予想）		0.00	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年11月期の連結業績予想（2022年12月1日～2023年11月30日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	13,227	△3.2	1,407	△10.1	1,395	△11.1	963	△6.6	12.19
通期	28,288	6.1	3,620	17.1	3,596	15.3	2,427	34.2	30.73

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年11月期1Q	79,007,500株	2022年11月期	79,007,500株
② 期末自己株式数	2023年11月期1Q	3,855株	2022年11月期	3,855株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年11月期1Q	79,003,645株	2022年11月期1Q	79,003,645株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症対策における新規感染者の減少や行動制限の緩和により、経済活動が正常化に向かうなか、緩やかに回復傾向が見られました。その一方で、長期化するウクライナ情勢による原油・原材料価格等の高止まりや世界的な金融引き締め政策などによる懸念材料が見込まれ、依然として景気の先行きは不透明な状況が続いております。

そのような中、当社グループは、コールセンター向けの人材派遣を主力サービスとする人材ソリューション事業がスポット需要の反動減により減収減益となりましたが、広域行政BPOサービスや環境経営支援サービスなど新サービスを中心にビジネスソリューション事業は順調な伸びを示しており、通期計画達成に向けてほぼ計画通りのスタートとなりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は6,089百万円（前年同四半期比6.6%減）、営業利益は452百万円（前年同四半期比32.5%減）、経常利益は454百万円（前年同四半期比31.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は288百万円（前年同四半期比35.4%減）となりました。

なお、当社グループは、社会的価値と経済的価値の両立を実現することを中期的なビジョンとし、①「既存事業の深堀りによるオーガニック成長の継続」、②「新たな事業領域における成長機会の獲得」、③「ESGを軸とした経営基盤の強化」の3点を重点戦略として定めております。

#### 2023年11月期第1四半期連結累計期間 連結業績

(単位：百万円)	2022年11月期 第1四半期	2023年11月期 第1四半期	増減率
売上高	6,520	6,089	△6.6%
営業損益	671	452	△32.5%
経常損益	667	454	△31.9%
親会社株主に帰属する四半期純損益	447	288	△35.4%

当第1四半期連結累計期間のセグメント経営成績（セグメント間内部取引消去前）は以下のとおりであります。

#### ①ビジネスソリューション事業

##### 〔事業概要〕

ビジネスソリューション事業では、シニアや障がい者など潜在労働力の活用を支援するサービスや、企業の業務の一部を受託するアウトソーシングサービスを提供しています。前者においては、株式会社エスプールプラスが、障がい者の就労に適した農園を企業に貸し出し、主に知的障がい者の採用・教育から定着化までを支援するサービスを行っています。株式会社エスプールでは、様々な経験やノウハウを有するシニアを企業の経営課題や業務課題の解決に役立てるサービスを提供しています。

後者のアウトソーシングサービスでは、株式会社エスプールロジスティクスが、通販商品の発送を代行する物流サービスを行っています。株式会社エスプールリンクでは、アルバイトやパートの求人応募の受付を代行する採用支援サービスを提供しており、株式会社エスプールセールスサポートでは、対面型の会員獲得業務や販売促進業務を行っています。ブルードットグリーン株式会社は、CO2の排出量算出や環境情報の開示に関するコンサルティング、カーボンオフセット仲介など環境経営の支援に関するサービスを提供しています。株式会社エスプールのグローバルでは、複数の自治体の行政業務を一括で受託する広域行政BPOサービスを行っています。

[当第1四半期連結累計期間の経営成績]

障がい者雇用支援サービスにおいては、設備販売の一部が第2四半期にずれこんだものの、管理収入が着実に積み上がっており、ほぼ計画通りの進捗となりました。ロジスティクスアウトソーシングサービスについては、新センターの開設に向けて新規の営業活動に注力したほか、既存センターの収益改善にも継続的に取り組み増収増益となりました。採用支援サービスは、行動制限の緩和に伴い飲食業を中心にサービス業の求人が急増しており、売上の回復が進みました。広域行政BPOサービスについては、拠点開設に積極的に取り組んできたことで順調に業務が拡大しており、売上は倍増の伸びとなりました。また、オンライン窓口に関しても自治体からの引き合いが強く、計画を上回るペースでの導入が進みました。環境支援サービスにおいては、TCFD提言に沿った情報開示の支援業務が拡大したことに加え、カーボンクレジットの販売が計画を上回ったことで、大幅な増収増益となりました。その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は2,499百万円（前年同四半期比25.3%増）、営業利益は533百万円（前年同四半期比9.8%増）となりました。

②人材ソリューション事業

[事業概要]

人材ソリューション事業は、人材派遣サービスを主力とする株式会社エスプールヒューマンソリューションズが提供するサービスで、コールセンター等のオフィスサポート業務とスマートフォンや家電製品等の店頭販売支援業務、ホテル業など接客業務に関する人材サービスを展開しています。サービスの特徴は、フィールドコンサルタント（FC）と呼ばれる同社の従業員と派遣スタッフをチームで派遣する「グループ型派遣」の形態を採用している点になります。派遣先に常駐するFCが派遣スタッフを現場で手厚くフォローすることで、未経験者を短期間で育成できるだけでなく定着率の向上にもつながり、顧客満足度の向上とシェア拡大につながっています。

[当第1四半期連結累計期間の経営成績]

主力のコールセンター業務においては、コロナ禍からの回復が鮮明なサービス業を中心に人材獲得競争が厳しさを増しており、派遣需要についても回復の兆しがようやく見え始めてきました。その結果、新規案件の獲得も徐々に進んできましたが、新型コロナウイルス感染症に関連したスポット業務の減少分を完全に補うまでには至りませんでした。一方、販売支援業務については、主力の通信キャリア関連の派遣ニーズは依然として弱かったものの、人手不足が特に深刻となっているホテルや航空関連の業務に注力したことにより売上減少によりやく歯止めをかけることができました。その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は3,615百万円（前年同四半期比20.5%減）、営業利益は321百万円（前年同四半期比40.6%減）となりました。

2023年11月期第1四半期連結累計期間 セグメント別業績

売上高（単位：百万円）	2022年11月期 第1四半期	2023年11月期 第1四半期	増減率
報告セグメント	6,544	6,114	△6.6%
ビジネスソリューション事業	1,995	2,499	25.3%
人材ソリューション事業	4,549	3,615	△20.5%
調整額	△24	△25	－%
合計	6,520	6,089	△6.6%

営業利益（単位：百万円）	2022年11月期 第1四半期	2023年11月期 第1四半期	増減率
報告セグメント	1,026	854	△16.8%
ビジネスソリューション事業	485	533	9.8%
人材ソリューション事業	540	321	△40.6%
調整額	△354	△401	－%
合計	671	452	△32.5%

(2) 財政状態に関する説明

①資産

当第1四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末から267百万円減少し、6,789百万円となりました。人材ソリューション事業の売上減少に伴い売掛金が281百万円減少しております。

当第1四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末から714百万円増加し、10,687百万円となりました。障がい者雇用支援サービス拡大のため、株式会社エスプールプラスにて、新規農園の建設や既存農園の増設をしており、有形固定資産が709百万円増加しております。

②負債

当第1四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末から750百万円増加し、7,927百万円となりました。納税や投資活動による支出等に備えて短期借入金を1,450百万円借り増ししております。一方、納税により未払法人税等が587百万円、未払給与を中心とする未払費用が125百万円それぞれ減少しております。

当第1四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末から39百万円増加し、2,463百万円となりました。長期借入金の返済により57百万円減少し、農園の新規建設等により資産除去債務が22百万円、繰延税金負債が81百万円それぞれ増加しております。

③純資産

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益により288百万円増加し、一方、第23期期末配当により632百万円減少し、7,085百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年1月12日に公表いたしました2023年11月期の第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,212	3,171
売掛金	3,441	3,159
商品	94	74
その他	313	394
貸倒引当金	△5	△9
流動資産合計	7,056	6,789
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,939	8,123
その他(純額)	1,189	1,714
有形固定資産合計	9,128	9,838
無形固定資産	60	66
投資その他の資産		
繰延税金資産	51	37
その他	732	745
投資その他の資産合計	784	782
固定資産合計	9,973	10,687
資産合計	17,030	17,476
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	261	272
短期借入金	3,450	4,900
1年内返済予定の長期借入金	228	228
未払法人税等	633	46
未払費用	1,428	1,303
賞与引当金	159	73
その他	1,014	1,102
流動負債合計	7,176	7,927
固定負債		
長期借入金	959	902
繰延税金負債	148	229
資産除去債務	1,283	1,305
その他	33	26
固定負債合計	2,424	2,463
負債合計	9,601	10,391
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	372	372
資本剰余金	246	246
利益剰余金	6,819	6,476
自己株式	△0	△0
株主資本合計	7,437	7,094
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	0	0
その他の包括利益累計額合計	0	0
非支配株主持分	△8	△8
純資産合計	7,429	7,085
負債純資産合計	17,030	17,476

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年2月28日)
売上高	6,520	6,089
売上原価	4,495	4,238
売上総利益	2,024	1,850
販売費及び一般管理費	1,353	1,397
営業利益	671	452
営業外収益		
受取利息	0	0
助成金収入	1	7
その他	0	0
営業外収益合計	2	7
営業外費用		
支払利息	6	5
その他	0	0
営業外費用合計	6	5
経常利益	667	454
特別利益		
固定資産売却益	—	0
特別利益合計	—	0
特別損失		
固定資産除却損	—	9
特別損失合計	—	9
税金等調整前四半期純利益	667	445
法人税、住民税及び事業税	171	60
法人税等調整額	38	96
法人税等合計	209	156
四半期純利益	457	288
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	10	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	447	288



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年2月28日)
四半期純利益	457	288
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	0	0
その他の包括利益合計	0	0
四半期包括利益	457	288
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	447	288
非支配株主に係る四半期包括利益	10	△0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年12月1日 至 2022年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ビジネスソリューション事業	人材ソリューション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	1,986	4,533	6,520	—	6,520
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	8	16	24	△24	—
計	1,995	4,549	6,544	△24	6,520
セグメント利益	485	540	1,026	△354	671

(注) 1. セグメント利益の調整額△354百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△354百万円であり、全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ビジネスソリューション事業	人材ソリューション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	2,481	3,607	6,089	—	6,089
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	17	7	25	△25	—
計	2,499	3,615	6,114	△25	6,089
セグメント利益	533	321	854	△401	452

(注) 1. セグメント利益の調整額△401百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△401百万円であり、全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。